

## 2. 火山の概況

(平成 16年 3月 4日 ~ 平成 16年 3月 10日)

浅間山では地震がやや多い状態が続いた。  
火山活動度レベル  
レベルは2。

三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。

福徳岡ノ場では変色水が確認された。

阿蘇山では浅部の熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。レベルは2。

霧島山では噴気活動が継続していた。

桜島では噴煙活動がやや活発になった。レベルは2。

薩摩硫黄島では噴火が発生した。

口永良部島では地震がやや多く発生した。

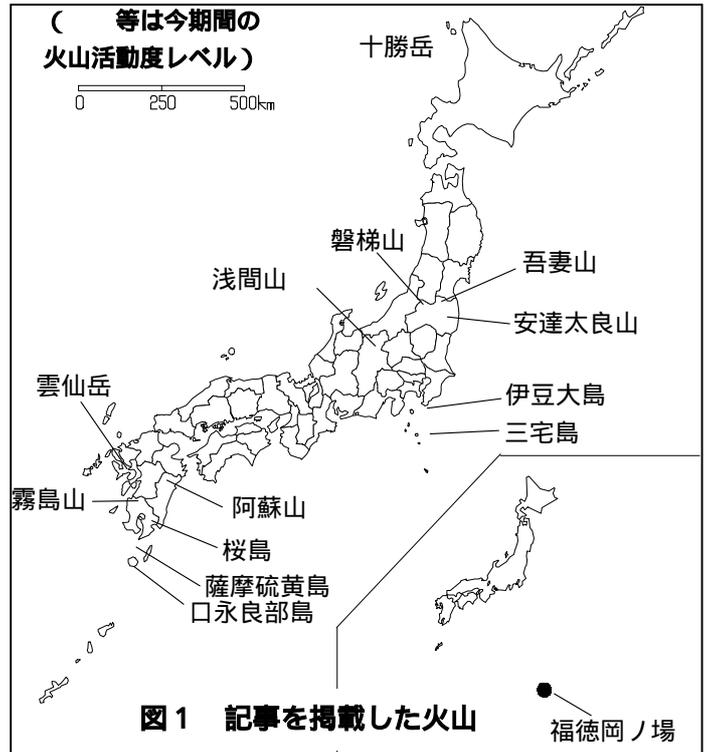


図1 記事を掲載した火山

表1 最近1か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		十勝岳	吾妻山	三宅島	八丈島	福徳岡ノ場	霧島山	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島	
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号										
11	3/ 4- 3/10																				
10	2/26- 3/ 3																				
9	2/19- 2/25																				
8	2/12- 2/18																				
7	2/ 5- 2/11																				

注1 記号の意味

- : 噴火した火山
- : 観測データ等に变化があった火山
- : 前期間まで や で掲載した火山の、その後の状況等
- : その他記事を掲載した火山
- 等の丸付き数字: 火山活動度レベル

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

### 十勝岳

2月 25日 ~ 26日にごく小規模な噴火が発生して以降、火山活動が活発化する様子はみられない。新たな微動や噴火は発生せず、地震活動や地殻変動にも特段の変化はなかった。

62-2 火口では活発な噴煙活動が継続しており、白色噴煙の高さは火口縁上 100 ~ 200m で推移した。なお、6日 ~ 7日には噴煙の高さが一時的に 1,000m を超えたが、弱風で多湿など気象の影響と考えられる。

### 吾妻山 (安達太良山、磐梯山の上空からの観測の記述を含む)

一切経山 (大穴火口付近) の地下、深さ数 km を震源とする微小な地震は、昨年 12 月以降増加傾向にあったが、1月中旬以降さらに多くなった。1月 24 日以降は減少傾向がみられ、今期間の日回数は 1 ~ 8 回、合計は 17 回 (前期間は 116 回) と少なくなった (図 2)。

また、3月 10日に東北地方整備局の協力により実施した吾妻山、安達太良山、磐梯山の 3 火山の上空からの観測では、いずれの火山でも噴煙活動が活発化している様子はみられなかった。特に安達太良山の噴気は、ここ数年と比較して静穏な状態であった。

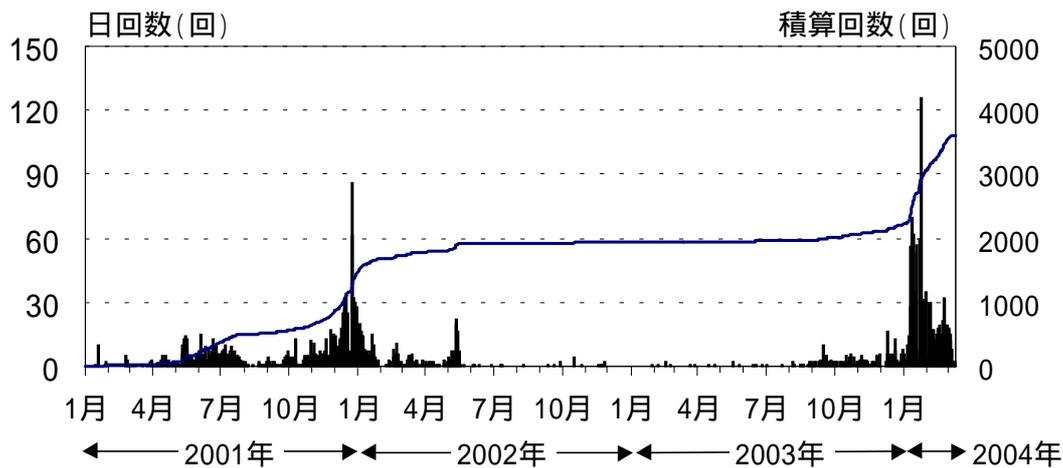


図2 吾妻山 地震の日回数（折れ線は積算回数）（2001年1月1日～2004年3月10日）

### 浅間山 [地震・微動・熱] レベル2（やや活発な火山活動）

昨年6月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、今期間も1日あたり32～76回とやや多く観測された。

振幅の小さい微動は3月5日に7回、8日と10日に各1回の合計9回観測された（前期間は3回）。

監視カメラによる観測では、白色の噴煙が最高で火口縁上300mまで上がった（3月9日）。

群馬県林務部が火口縁に設置している赤外線カメラは、火口底には引き続き高温部が確認されたが、その範囲は次第に狭くなっている。

### 伊豆大島 レベル1（静穏な火山活動）

島内北西部を震源とする地震が2月26日～27日、3月2日に一時的に多発したが、その後は減少し、2月26日以前の落ち着いた状態に戻っている。

噴煙活動、地殻変動等のその他の観測データには特段の変化はなかった。

### 三宅島 [微動・地震・噴煙・火山ガス]

振幅のやや大きい微動が3月5日13時09分頃発生した。その後、微動の振幅は徐々に減衰したが、振幅の小さいやや低周波地震が多発し、5日～10日には1日あたり114～589回観測された。やや低周波地震がこのように多発したのは2001年5月5日の446回以来である。なお、これらの微動の発生や地震活動の活発化に際して、その他の観測データに特段の変化はなかった。

白色噴煙は山頂火口から連続的に噴出しており、期間中の高さの最高は火口縁上500mであった。9日に行った上空からの観測<sup>1)</sup>では、噴煙活動や火口内の地形等の状況に大きな変化は見られなかった。同時に行った二酸化硫黄の放出量の観測<sup>1)</sup>によると、日量3,300～5,100トンと長期的には低下傾向がみられるものの依然多い状態であった（図3）。

GPSによる地殻変動観測では、昨年6月頃から再び三宅島の収縮傾向を示している。

1) 警視庁の協力による

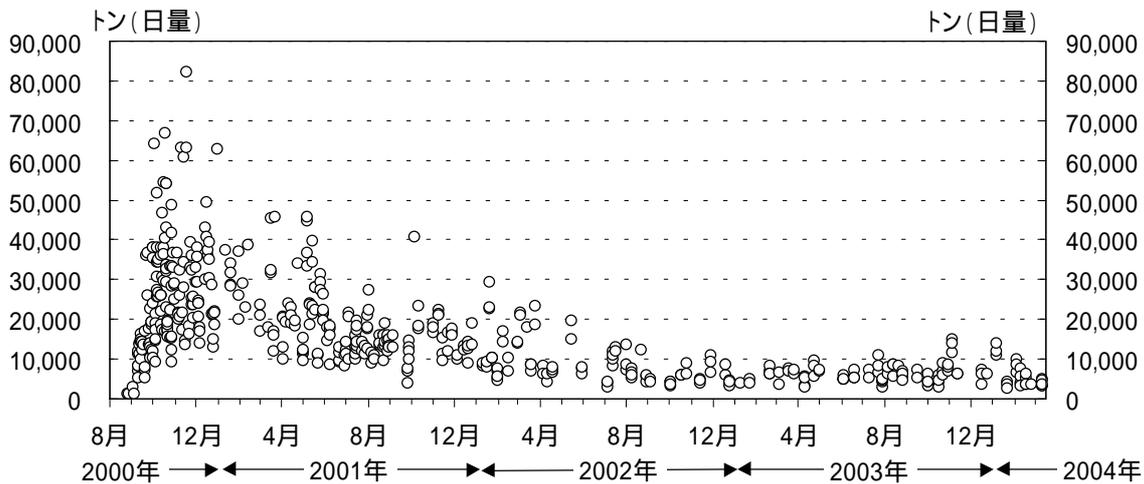


図3 三宅島 二酸化硫黄放出量の推移 (2000年8月26日～2004年3月9日)

### 福德岡ノ場 [変色水]

3月8日13時00分～13時10分に海上保安庁第三管区海上保安本部が行った上空からの調査によると、福德岡ノ場付近の海面に、幅150mで、西方向に約1,000m帯状に広がる黄土色の変色水が確認された。浮遊物はなかった。

### 阿蘇山 [熱・土砂噴出・微動・地震] レベル2 (やや活発な火山活動)

中岳第一火口の浅部の熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。

3月5日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は灰色、湯量は引き続き約4割で、湯だまりの表面温度の最高は71と依然高温状態にあった。湯だまり南西側では高さ2～3mの小規模な土砂噴出が観測された(前回まで観測していた湯だまり中央部の土砂噴出、南西側の噴湯現象は噴煙のため確認できなかった)。1月14日の規模の大きい土砂噴出以降、小規模な土砂噴出はほぼ連続的に発生しているとみられる。

また、孤立型微動が728回(前期間は993回)と依然多い状態で、中岳第一火口の浅部の火山活動はやや活発であった。

その他の観測データについては地震の発生は少なく、噴煙活動や地殻変動には特段の変化はなかった。

### 雲仙岳 レベル1 (静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

### 霧島山 [噴気]

期間中、霧島山の火山活動は総じて静穏に経過した。

3月9日～11日に実施した機動観測によると、昨年12月に形成された2か所の噴気孔から、依然として白色で少量の噴気が火口縁付近まで上がっていた。

### 桜島 [噴煙] レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

前期間の3月2日～3日に続き4日と9日にも、桜島で噴火として計数している規模の噴煙活動には至らないものの、火山灰を含む有色噴煙(灰白色)を間欠的に上げた。

鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)では、今年に入ってから降灰は観測されていない。

### 薩摩硫黄島 [噴煙・微動]

監視カメラによる観測では、5日09時22分頃、灰白色の噴煙が火口上600mまで上がっているのを確認した。三島村役場硫黄島出張所によると、この期間降灰はなかった。

規模の小さい微動が時折発生しており、また、4日及び5～6日にかけて連続微動を観測した。

薩摩硫黄島で噴火を観測したのは、2003年10月20日（降灰の確認）以来である。

### 口永良部島 [地震]

微動は発生しなかった（前期間は1回）。

地震は2月2日に多発して以降増減を繰り返しており、今期間は短時間に集中して発生することはなかったものの、期間中の合計は前期間（14回）より増加して63回となった。

**表2 火山情報発表状況**

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第124号 (1日2回発表)	4日09:30	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
	火山観測情報第137号	10日16:30	
阿蘇山	火山観測情報第18号	5日14:00	火山活動が引き続きやや活発（湯だまりから規模の小さい土砂噴出が継続、孤立型微動が多い状態）。レベルは2。
口永良部島	火山観測情報第15号	5日14:00	地震の発生状況は消長を繰り返している。